

# 仙台城の歴史

藩主	年号	西暦	月	主な出来事	☆主な絵図の制作年
初代 まさむね 政宗	天正 19	1591	9月	伊達政宗、米沢から岩手沢(岩出山)城に移る	
	慶長 5	1600	11月頃	徳川家康より仙台城普請許可される	
			12月	政宗、千代を仙台と改め、城普請の縄張を行う	
	6	1601	1月	政宗、仙台城普請を開始する(築城開始)	
	8	1603	8月	政宗、仙台城に入城する	
	15	1610		仙台城大広間が完成する	
	元和 2	1616	7月	地震により石垣・櫓が被害を受ける	
寛永 4	1627	9月	五郎八姫(政宗の長女)着仙し、西屋敷に入る		
		2月	幕府より仙台屋敷(若林城)の経営許される(翌年11月完成)		
13	1636	5月	政宗、江戸桜田邸で死去。忠宗二代藩主となる		
二代 ただむね 忠宗	寛永 15	1638	9月	二の丸の普請を開始(翌年6月完成) ☆【奥州仙台城絵図】正保2年(1645)	
	正保 3	1646	4月	地震により石垣が崩れ、櫓が倒壊する	
三代 つなむね 綱宗	万治 3	1660	8月	綱宗、隠居	
四代 つなむら 綱村	寛文 8	1668	7月	大地震、仙台城本丸石垣が崩れる	☆【仙台城下絵図】寛文4年(1664)
			3月	寛文事件(伊達騒動)起こる	
	天和 3	1683	5月	仙台城本丸石垣修復なる	☆【奥州仙台城并城下絵図】天和2年(1682)
	元禄 元	1688		元禄年間の二の丸改造(1700年頃まで)	
8月			綱村、隠居		
九代 ちかむね 周宗	文化 元	1804	6月	雷火のため二の丸全焼	
	2	1805	3月	周宗、二の丸再建に着手(1809年4月完成)	
十三代 よしくに 慶邦	明治 元	1868	9月	仙台藩降伏	
	明治 2	1869	10月	版籍奉還に伴い二の丸に勤政庁設置	
	4	1871	11月	東北鎮台(後の仙台鎮台)を仙台城二の丸に移す(明治7年頃までに仙台城本丸が破却される)	
	15	1882	9月	仙台鎮台(後の第二師団)の失火により、二の丸殿舎焼失	
	昭和 6	1931	12月	大手門(入母屋本瓦葺櫓門)・脇櫓を国宝指定	
	20	1945	7月	空襲により、大手門・脇櫓、翼門焼失	
	40	1965	5月	大手門脇櫓建設着工(1967年12月完成)	
	47	1972	7月	青葉山、国天然記念物指定	
	平成 9	1997	8月	石垣修復工事に伴う仙台城本丸跡発掘調査開始	
15	2003	8月	仙台城跡国史跡指定		
16	2004	3月	仙台城本丸跡石垣修復工事完成		
23	2011	3月	地震により石垣・土塀、崖面などが被害を受ける		
28	2016	9月	地震被害からの災害復旧工事が完了する		

※出典は『貞山公治家記録』、『伊達家文書』、『義山公治家記録』、『青山公治家記録』などによる

## 仙台市文化財パンフレット第77集

発行/仙台市教育委員会文化財課 TEL 022-214-8544 FAX 022-214-8399  
mail kyo019320@city.sendai.jp

仙台城跡HP <https://www.city.sendai.jp/shisekichosa/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/bunkazai/bunkazai/joseki/index.html>

発行日/令和2年3月  
印刷/鶴仙台紙工印刷



この印刷物は環境に優しい植物性インクを使用しています



※仙台城跡周辺の様子(2016年撮影)



## 仙台市教育委員会

【仙台城下絵図】(宮城県図書館所蔵)寛文4年(1664)頃の仙台城

## 仙台城の歴史

伊達政宗は、関ヶ原の戦い直後、上杉氏との戦乱が続く中で、青葉山の山中にあった「千代城」を利用して、慶長5年(1600)12月に城の縄張り(配置計画・設計)を行いました。この時に「千代」を「仙台」に改めたとされています。翌年1月からは普請(土木工事)に入り、慶長7年(1602)にはおおむね完成したようです。

城の中心である本丸は青葉山の山頂に築かれ、東側を広瀬川、南側を電ノ口溪谷の崖で囲まれ、地形を上手く利用して防御しています。西側は「御裏林」(現在の東北大学植物園)と呼ばれる山林が広がり、傾斜の比較的ゆるやかな北側には石垣を築いて守りを固めています。この本丸は、仙台藩二代藩主忠宗が山すそに二の丸を造るまで、仙台藩の政治の中心でした。政宗時代には、まだ二の丸はなく、本丸と現在仙台市博物館の建つ東丸(三の丸)が主要な曲輪(造成して平坦にした土地)として利用されていたと考えられています。

明治になると仙台城は明治政府の管理となりました。その後、本丸の建物は明治初め頃には壊され、二の丸は軍の施設として利用されていましたが、明治15年(1882)の火災で建物のほとんどが焼失しました。残っていた大手門や脇櫓、巽門も、昭和20年(1945)に第二次世界大戦の空襲で燃えてしまいました。

現在、城が機能していた当時の様子を残すものには石垣や土堀、土塁などがあり、平成15年(2003)8月には、近世を代表する城跡と評価され、国の史跡になりました。



〈大橋から見た大手門  
(仙台市博物館所蔵)〉

明治15年(1882)以前に撮られた写真です。中央からやや左上に見えるのが大手門で、その背後に二の丸の建物群が見えます。



〈仙台城跡の航空写真  
(赤枠が史跡指定範囲)〉

本丸の西部は神社の境内地、二の丸の大部分は大学のキャンパスとなっています。

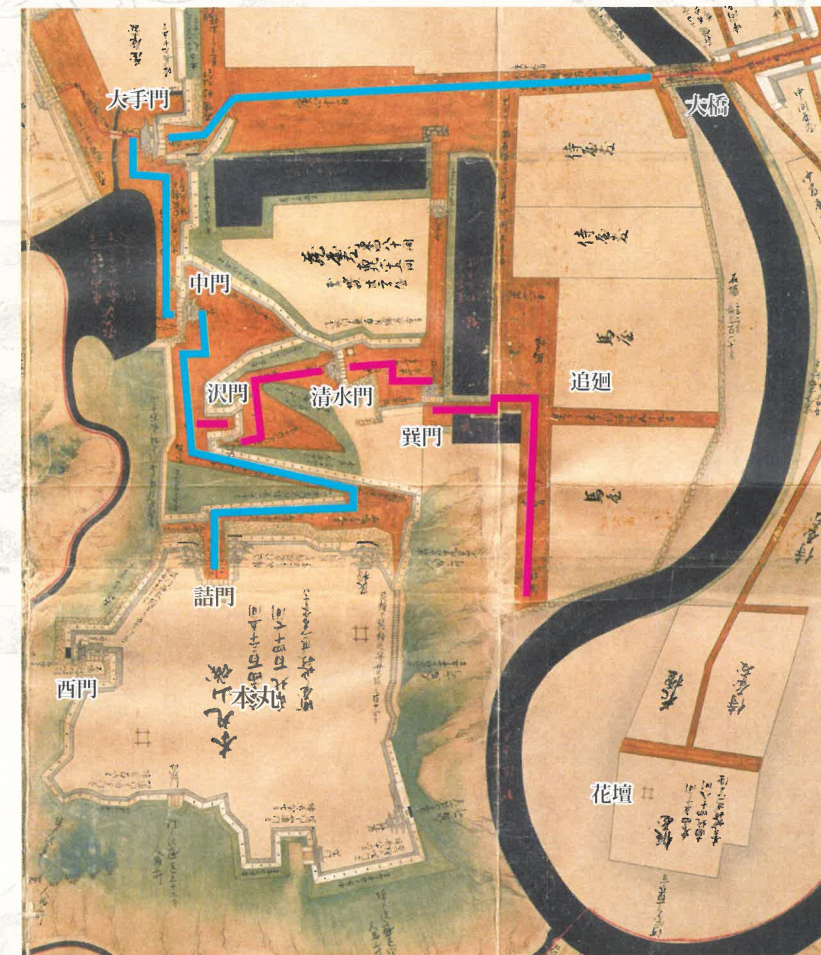
※最後のページに城内の案内地図があります。

## 本丸へ至る2つのルート

城下から本丸へ向かう道には大手門ルート(下図の青い線)と巽門ルート(下図の桃色の線)の二通りあります。どちらも急な坂道を登り、途中でいくつかの門を通らないと本丸まで辿り着けません。敵に侵入された場合にはこの門の場所で侵入を防ぎます。

大手門ルートは、大手門から中門をぬけて詰門に向かう登城路で、仙台城の正式な登城路と考えられています。中門までは比較的緩やかな上り坂ですが、そこを過ぎると急な坂道となり、本丸へと続いています。

巽門ルートは、追廻から巽門をぬけて、途中、清水門と沢門を通り、詰門に向かう登城路です。清水門付近は、明治時代以降に路面が掘り下げられてだいぶゆるやかですが、江戸時代は今よりも急な坂道でした。大手門ルートより通る門が多く、道も曲がりくねっているため敵に侵入された場合に周囲から攻撃しやすい登城路になっています。政宗が仙台城を築城した当初はまだ戦となる可能性があったことから、花壇から橋(江戸時代初め頃まで存在)を渡り巽門に入るこのルートが大手道(本丸へ向かうメインルート)であったともいわれています。



『奥州仙台城絵図』(仙台市博物館所蔵) 正保2年(1645)

おおてもん  
**大手門** -仙台城の表玄関-

大手門は、本丸詰門と並び、城内で最も立派な門でした。伊達家の仙台城にかける思いを示すかのような桃山様式の壮大な建物で、明治時代になっても残り、昭和6年には国宝に指定される程でしたが、昭和20年に空襲で焼失しました。現在は脇櫓だけが昭和42年に再建されています。



△大正末から昭和初め頃の大手門（『目で見える仙台の歴史』より転載）

左に脇櫓、右に土塀が見えます。大手門は幅約20m、高さ約12.5mあり、脇櫓や土塀と比べるとその大きさがうかがえます。



◁大手門跡の北側に残る土塀  
 城内で江戸時代から残る唯一の建造物です。

なかのもん  
**中門** -本丸への関門-

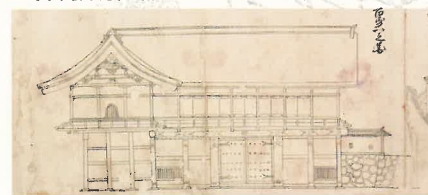
大手門と本丸詰門の間に位置し、道路の屈曲と石垣が江戸時代の様子を留めています。門は大正時代に取り壊され、部材は現在の知事公館の門に利用されたと言われています。



△大手門側から見た中門跡

中門は奥側が自然石の石垣、手前が加工石材の石垣で積み方が異なります。

▽『仙台城及び江戸上屋敷主要建物姿絵図』（中門部分）（仙台市博物館所蔵）



たつみもん しみずもん としゅうろ  
**巽門と清水門** -もう一つの登城路-

巽門から入る登城路は、大きな屈曲を持つ急な坂が続いています。そのことから、築城期の大手道と考えられています。この登城路周辺には、清水門の石垣など野面積みの石垣が多く見られ、築城当初からの雰囲気と比較的よく残っている、城内でも数少ない場所です。



△巽門正面の古写真  
 （『目で見える仙台の歴史』より転載）



△清水門跡の現況  
 江戸時代は今より急な坂道でした。

さうしゅ やしき  
**造酒屋敷跡** -日本でここだけ?!-

仙台城では、全国的にも大変めずらしく、城内で酒造りをしていました。政宗は慶長13年（1608）に大和国（今の奈良県）から職人を招き、屋敷や道具を与えて酒をつくらせ、名字（榎森）を与えたとされています。発掘調査では建物跡のほか、酒造りに関する容器や木簡なども出土しています。



△出土した木簡  
 榎森の当主の名前が記されています。



△調査で見つかった建物跡  
 人が立っている場所が柱の跡です。

ひがしまる したやしき  
**東丸(三の丸)** -政宗の下屋敷-

仙台市博物館がある場所は、東丸（三の丸）と呼ばれ、江戸時代には藩の米蔵が置かれていました。博物館建設に伴う発掘調査で政宗時代の屋敷跡や庭園跡が見つかり、ここに政宗の下屋敷があったことがわかりました。高級な国産茶器などが多数発見され、この場所では茶の湯を楽しんでいた政宗の生活の一端が想像できます。



△美濃伊賀水指

ほんまる  
**本丸** -仙台城の中心-

城内の曲輪で最も高い場所に位置し、大きさは東西約245m、南北267mあります。全国の城跡のなかでも大きな規模で、ここには御殿群が存在していました。

政宗の死後、藩主の生活や行政の場は二の丸に移りますが、大広間など一部の建物は江戸時代を通して使用されました。



△本丸の航空写真 中央に見えるのが大広間跡の遺構表示

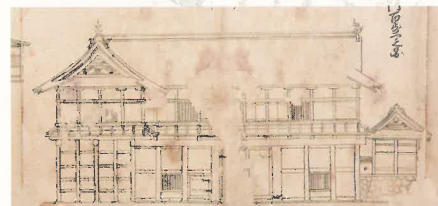


△正保2年(1645)の『奥州仙台城絵図』の本丸部分(仙台市博物館所蔵)  
最も古い絵図で、櫓等も描かれています。



△現在の本丸北壁石垣  
この石垣は、四代藩主綱村(1659~1719)の頃に築かれた石垣です。

つめのもん  
**詰門** -本丸の正面入口-

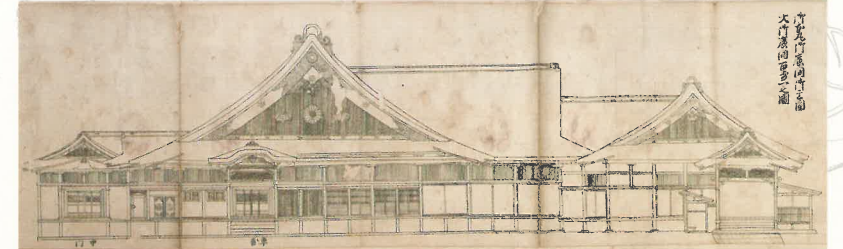


△『仙台城及び江戸上屋敷主要建物姿絵図』の詰門部分(仙台市博物館所蔵)

本丸の詰門は、一部史料で「仙台城大手」などと記され、城内でも重要な門として認識されていました。  
瓦葺の二階門で、絵図によれば、幅19.7m、奥行6.7m、高さ12.5mと推定されます。

おおひろま  
**大広間** -仙台城の中心的建物-

本丸御殿群の中で最大の建物です。政宗時代は、仙台藩の政治の中心でもあり、二代藩主以降は政治や藩主の生活の場は二の丸の御殿群に移りました。しかし、重要な儀式や行事は本丸の大広間で行われていました。また、建物の中には藩主より身分の高い方を迎えるための部屋も造られました。



△『仙台城及び江戸上屋敷主要建物姿絵図』(大広間部分)(仙台市博物館所蔵)  
屋根はより格式の高い柿葺などの板屋根であったと考えられます。

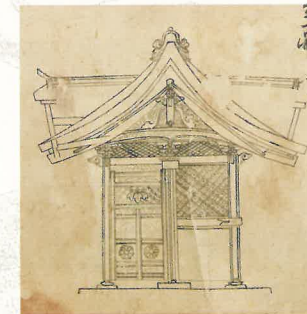


大広間跡遺構表示

調査によって明らかになった礎石の位置と部屋割りを復元しています。  
建物の大きさは、東西約33.5m、南北約26.3m、高さ約16.5m、部屋数は、大小15部屋ありました。

おなりもん  
**御成門** -藩主も通れない門-

大広間正面には御成門という特別な門がありました。普段は閉められており、天皇家や将軍家など身分の高い方を迎えるために造られた門です。江戸時代を通して使用されることはなかったといわれています。



△『仙台城及び江戸上屋敷主要建物姿絵図』(御成門部分)(仙台市博物館所蔵)



△御成門跡の礎石(上段)と発掘調査の様子(下段)  
礎石は門の北東角にあたります。

## 城内に残る石垣<sup>いしがき</sup>

城内には約 40 箇所の石垣が残っています。それぞれ使っている石材や大きさ、積み方が異なり、色々な石垣を見ることができます。

城内で見られる石垣の積み方には、主に野面積みと切石積みがあります。野面積みは、加工をしていない石を使う積み方で、城内では清水門跡周辺で多く見られます。切石積みは、四角く加工した石を使う積み方で、大手門跡や本丸北側の石垣などで見られます。



△大手門北側石垣



△沢曲輪石垣 (清水門跡南側)



△中門石垣 手前が野面積み、奥が切石積みです。

## 政宗の石垣

本丸北壁石垣の内部には、政宗時代に築かれた石垣が埋まっています。江戸時代に、本丸を修復した際、古い石垣の一部がそのまま埋められたようです。



△発掘調査で見つかった政宗時代の石垣

## 災害と石垣

2011年の東日本大震災では、仙台城跡に大きな被害があり、特に本丸北西部の石垣は崩落や変形が起きました。崩落した石垣は位置を特定し、変形した石垣も一石ずつ解体して積み直しました。

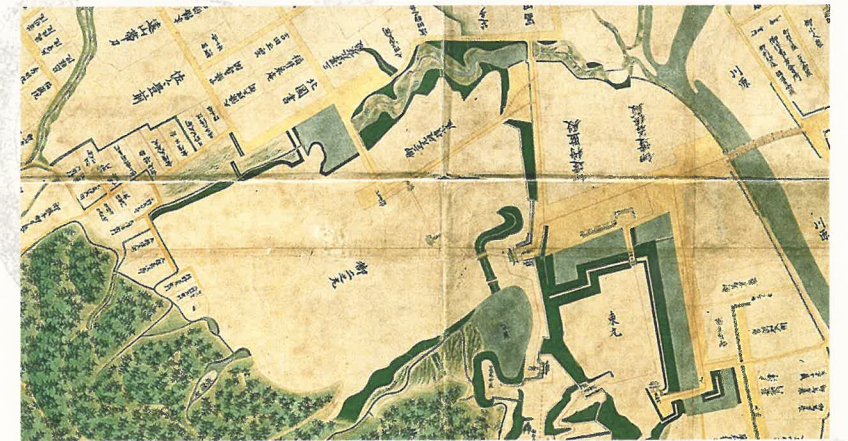


△本丸北西石垣の石垣復旧工事の様子

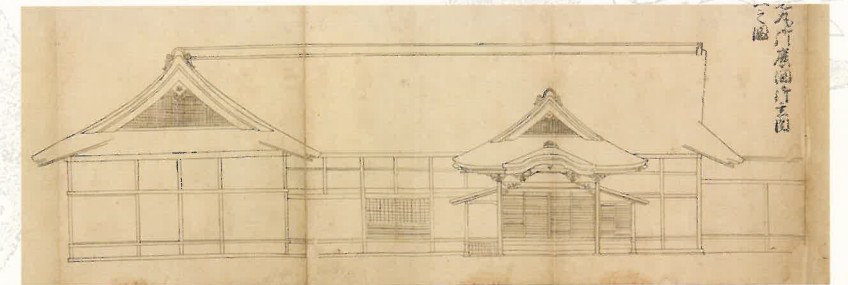
## 二の丸<sup>ちゆうすう</sup> -藩政の中枢-

政宗の死後、二代藩主忠宗によって寛永 16 年 (1639) に二の丸が造営され、藩主の生活や主な行政の場はここに移りました。

二の丸造営後、藩政に関わる施設が充実し、行政組織が整えられていきます。四代藩主綱村の頃の元禄年間 (1688 ~ 1704) には、敷地が拡張され、幕末までほぼ姿を変えずに藩政の場として使用されました。



△元禄 4 年 (1691) 頃の「仙台城下五麓卦絵図」(二の丸部分) (仙台市博物館所蔵)



△「仙台城及び江戸上屋敷主要建物姿絵図」(二の丸広間玄関部分) (仙台市博物館所蔵)

## 扇坂<sup>おうぎざか</sup> -二の丸への登城口-

仙台藩士が二の丸に出勤する際の出入り口の一つで、地形が扇の形をしていることから、この名前と呼ばれています。



△現在の扇坂付近 (左) と「奥州仙台城絵図」の扇坂部分 (右) (仙台市博物館所蔵)

## とじょうる 登城路を歩こう!!

城下から仙台城跡本丸に至る登城路には、**大手門・中門**を通るものと、**追廻**から**巽門・清水門・沢門**を通る二つのルートがあります。

政宗の築城直後の登城路は、**巽門**を通るルートであったと考えられています。

### 大手門ルート

## 大橋・大手門・中門を通る登城路

現在は市中心部から太白区八木山方面に抜ける市道として多くの方々に利用されています。大橋から大手門へ向かう道路は、今はまっすぐに伸びていますが、かつては大手門の手前で北側に折れていました。本来の登城路の名残りを、広瀬川の川底に残る昔の大橋の橋脚跡から見るすることができます。



沢門石垣と 屈曲する登城路



沢門石垣周辺の屈曲する登城路



中門跡と石垣



西門跡と本丸北西石垣



巽櫓跡から見える景色



本丸大広間跡の遺構表示



伊達政宗騎馬像

### 巽門ルート

## 巽門・清水門・沢門を通る登城路

巽門から沢門を通る登城路は、現在は、仙台市博物館から本丸跡へ向かう遊歩道として利用され、石垣などの遺構を静かな自然環境の中で観察することができます。今も残る複雑な屈曲や途中の石垣などから、防御を意識した道であることが感じられます。



ライトアップされた本丸北壁石垣



巽門跡と巽門跡西側の石垣

御裏林は現在、東北大学植物園となっています。散策の際は、植物園入口よりお入りください。

お うちばやし  
御裏林

至 東北大学植物園本館



二の丸



大手門北側土塀と石垣



焼失前の大手門と脇櫓(古写真)  
〈仙台市博物館所蔵〉

※本来の登城路

東丸(三の丸)

※本来の登城路

五色沼

国際センター

追廻

るーぶる仙台  
バス停



広瀬川の川底に残る橋脚の跡

広瀬川 大橋

ビュースポット

● 主な案内板・説明板の設置場所